

TOILET

**ITSUMO no
MOSHIMO?**

無印良品は、2008年より防災プロジェクト「いつものもしも」を始め、ふだんづかいできる物を防災用品として提案してきました。防災の大切さを知るきっかけが、被災する事であってはならない。いつものもしもが、1人でも多くの方の防災を始めるきっかけになりたいと思い、活動が続けられました。新しい試みとして、防災について語らう場を作りました。それも、主に防災の専門家ではない方々が集まる場所。そこから、防災を自分ごととして考えはじめた方々の、純粋で強く、楽しい「いつものもしも」のアイデアが生まれました。これらの新しいアイデアを活用していくことと、防災に取り組む人の輪を広げて行きたいと思っています。

掲載のアイデアは、必ずしも安全・効果を検証したものではありません。実行する場合には各自にて安全を十分に配慮いただきますようお願いします。なお、このアイデアの実行を起因とする怪我や事故、商品不具合についての補償はいたしかねますことをご了承ください。

様々な社会の課題に対して、市民とともにクリエイティブな視点でもって、その解決を目指すデザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) のプログラム「+クリエイティブゼミ」。今回のゼミは、無印良品とともに、備えは日常の中にあることが大切であり、それらを普段から使いこなせていることが本当の防災力につながる、という考えをもとにスタートしました。ふだん使いできるモノの災害時における使い方を考え、「モノの見方」を再考する力を養うことを目的としたこのゼミ。そこから生まれた「新しいこと」「新しいもの」そして「新しい使い方」の3種類のアイデアたちが少しでもこの冊子を手にとった方が「もしも」を考えるきっかけになればと思います。

いつものもしもピクニック

近くの公園で使い慣れた無印良品のアイテムを持ちだしてのピクニック。快適に過ごすために、温かいものを外で食べるために、何を持って行ってどんな工夫をするのかということを考えるのは、実はもしものための備えにつながります。

アイデア発案者



片渕 未帆
会社員



久保田 琴美
大学生



友定 徳子
会社員



矢野 碧
高校生



高橋孝治
プロダクトデザイナー

こと

01



出張防災

「いつものもしも」をはじめとしたいろんな防災のための知恵や技を伝える出張教室を開催できれば、いろんな人がもっと防災に興味を持ってくれるかもしれません。

アイデア発案者



正井 裕子
中学校教員

こと

02



いつものもののギフトセット

ふだん使いできるモノを防災用品として提案してきた「いつものもの」。防災の備えを贈るをテーマにした防災グッズのギフトセット。父の日や敬老の日、子どもの日にあわせて、大切なあの人に備えを贈る習慣をはじめてみませんか。

こと

アイデア発案者



中野 優
KIITO スタッフ

03



MUJI × 起震車

擬似的に地震の揺れを体験できるよう、トラックの荷台に部屋の中が再現されている起震車。無印良品の家具や家電が入った部屋を再現し、どうすれば地震のときに被害がすくなくなるか、考えてみるのもいいかもしれません。

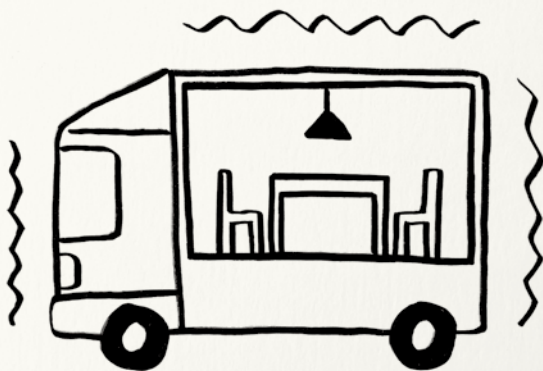
アイデア発案者



加藤 聡士
会社員

こと

04



どこでもライト

シリコーンのいろんなケースに入れて使える「タグツール」のLEDライトのバリエーション。旅に便利なこの道具は、ひもに通してペンダントにしたり、ベルトを取り付けてヘッドライトにしたりともしものときの助けになるような使い方もできるかもしれません。

アイデア発案者



高橋孝治
プロダクトデザイナー



寺田 理恵
グラフィックデザイナー

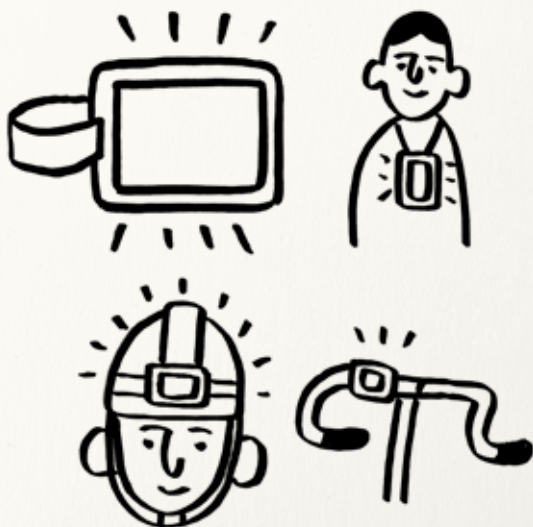


三木 裕子

使

い方

05



身近な防災頭巾

もしものときに自分の頭を守ってくれる防災頭巾。ただ、もしものに備えて、いつも持ち歩くことはなかなかできることではありません。そこで、持ち歩きやすいものを防災頭巾にできないかと考えました。たとえば、防災頭巾として使える新しいネッククッションがあれば、少しでももしもの備えを持ち歩きやすくなるかもしれません。

もの

アイデア発案者



奥津 翼

フットウェア開発

06



カーテント

カーテンの機能に注目すると、防災や遮光、断熱などの家を構成する要素がつままっていることが分かりました。常に家にあるカーテンとカーテンレールに少し機能を加えれば、もしものときの簡易の家、テントとして機能するかもしれません。

アイデア発案者



奥津 翼
フットウェア開発

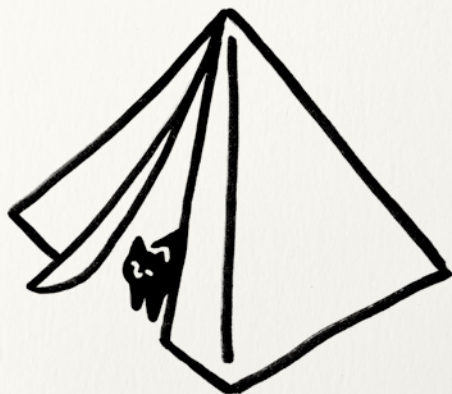
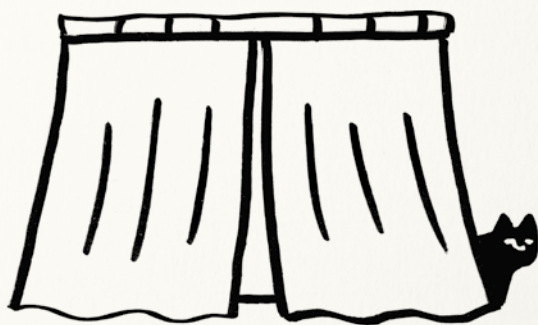


山森 彩
ライター

使

い方

07



転倒防止ベルト

ベッド横の棚の中身や上に載っているものは、地震のときに倒れたり飛んできたりすることで、自分をおそう危険物になります。そうならないように、無印良品の家具をベルトなどの固定用のアイテムで留めたり、天井との間に箱などをいれることで、もしものときの備えになります。

アイデア発案者

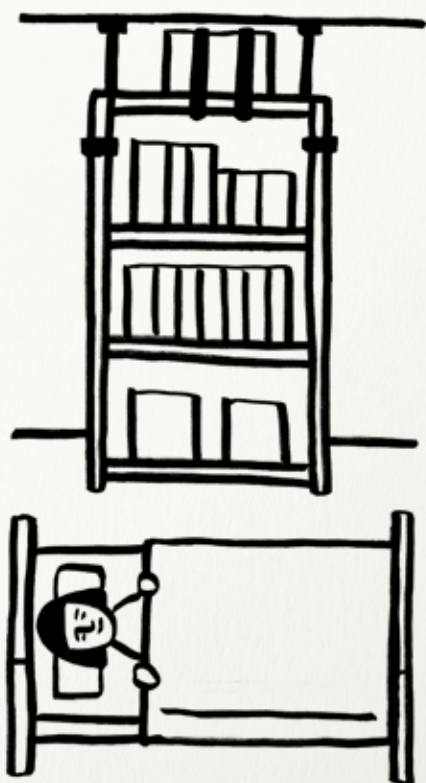


安廣 恵
主婦

使

い方

08



全面付せん

避難先や安否を知らせたいときに。30cm 角くらいの大きなふせん、全面のりで貼ってはがせる仕様にすれば、必要な大きさにちぎって掲示板や扉、物資の仕分けなどいろんな場面で使うことができます。

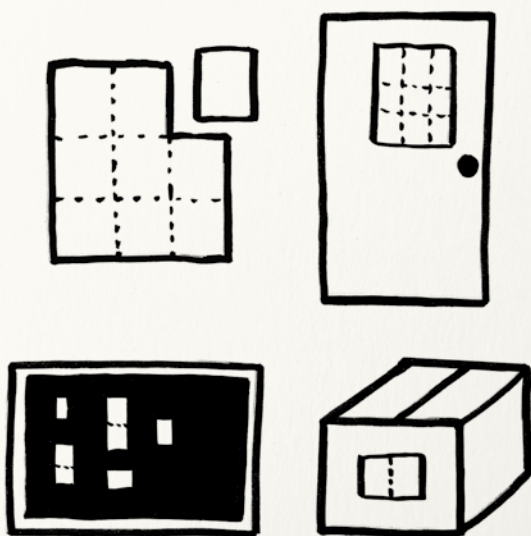
もの

アイデア発案者



二階堂 薫
コピーライター

09



布アイテムで生理ナプキン

ふだん使う布アイテムを1束多めに買っておき、カットコットンなどと組み合わせて生理用のナプキンとして使えるように。女性にとって、こういったもしものときの技がとても重要になります。

アイデア発案者



二階堂 薫
コピーライター

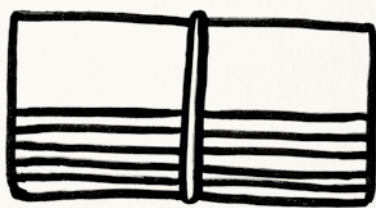


山森 彩
ライター

使

い方

10



荷台になる三輪車

子どもはすぐに大きくなります。小さいときに買った三輪車が、三輪車として活躍できる期間は、そんなに長くありません。使わなくなった三輪車に少し工夫をすることで、荷物を運べる手押し車になる。そんな新しい三輪車があれば、いつものときももしものときもまだまだ活躍することができます。

もの

アイデア発案者



奥津 翼
フットウェア開発

11



収納ボックスの使い方

たくさんのをしまったり、イスとして座ったり、氷を入れてクーラーボックスにもなる収納ボックス。もしものときには、袋を取手に引っ掛けて簡易トイレとして使用するなど、いろいろな使い方を考えることができます。

アイデア発案者



二階堂 薫
コピーライター



高橋孝治
プロダクトデザイナー

使

い方

12



TOILET

自由に切って使える不織布

無印良品の家具や雑貨などに統一のサイズやモジュールの仕組みの考え方を不織布にも応用できないか。不織布が使える範囲はとても広く、マスクやシート、バッグ、ドリップペーパーなど創造力次第でいろんなことに使える、フォーマットのようなプロダクトが生まれるかもしれません。

使

い方

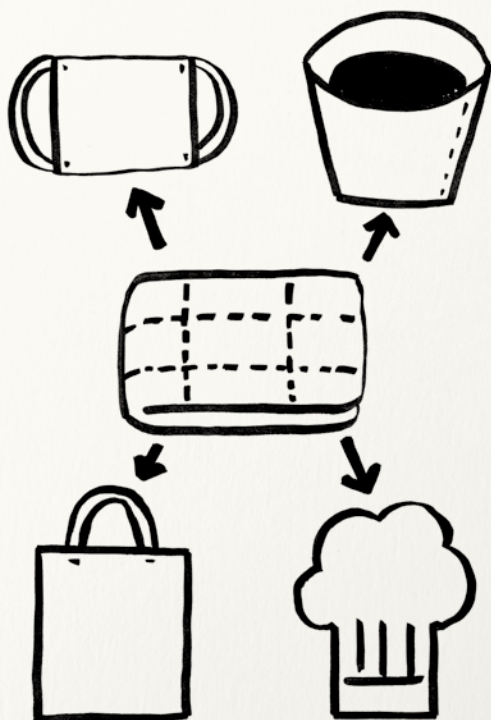
アイデア発案者



奥津 翼

フットウェア開発

13



スタンプを押せる大判ハンカチ

ノートやバッグにいろんなスタンプを押すことができる MUJI YOUR SELF コーナー。もしものときに、マスクとして粉塵からのどを守ったり、ケガをしたときは縛って止血に使うことができる大判ハンカチにスタンプを押し、圧縮してコンパクトにすることで、プレゼントにもぴったりのもしものグッズの完成です。

アイデア発案者



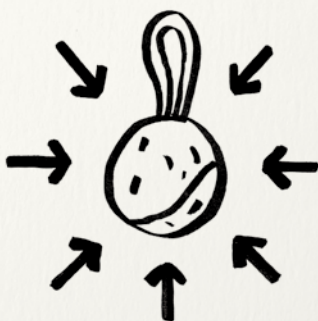
寺田 理恵
グラフィックデザイナー



百田 真治
防災 NPO スタッフ

もの

14



両手がふさがらないハンドライト

自転車などのチューブに切れ目を入れるだけで、ライトを手巻き付けて両手がふさがらずに使うことができます。アウトドアでも使えるこの知恵は、もしものときにも役に立つはずです。

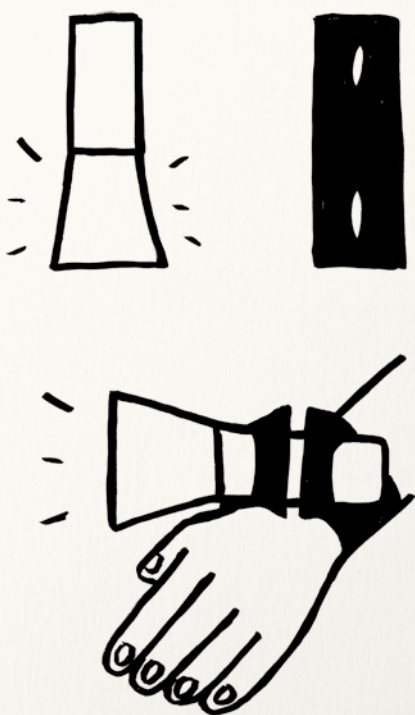
アイデア発案者



手塚 寛
防災関係

もの

15



もしものときの水の知恵

植木鉢やコーヒードリッパーなど、すり鉢状で底に穴の空いている入れ物。例えば、下から順番に小石→砂利→炭→砂→布と詰めていけば、もしものときの手作りの濾過器としても使えるかもしれません。

アイデア発案者



奥津 翼
フットウェア開発



加藤 聡士
会社員

使

い方

16



ロープの束でできたベルト

防災用品の中によく入っている「ロープ」。いつも持ち歩いているものではないけれど、スーツケースや腰に巻くベルトがたくさんのロープでできていれば、もしものときに役立つこともあるかもしれません。

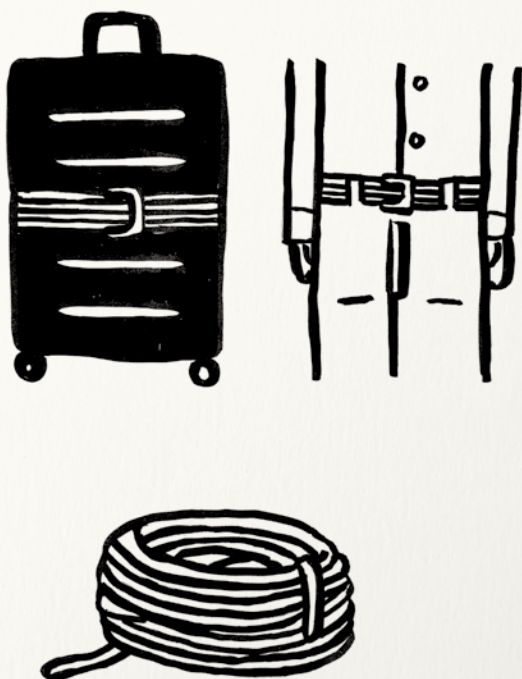
もの

アイデア発案者



奥津 翼
フットウェア開発

17



新聞紙として使える広告物

もしものときに体に巻いて暖をとったり、紙食器を折ったり、簡易のトイレになったり、骨折の添え木代わりにになったりといろんなときに役に立つ新聞紙。もし、無印良品のカタログや広告が新聞のような紙質だったら、家に新聞がなくても、もしもの備えがしやすくなるかもしれません。

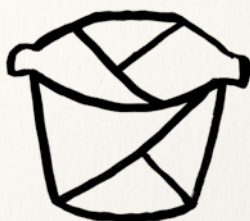
もの

アイデア発案者



山森 彩
ライター

18



防災は足元から

もしものときに歩いて家まで帰れる革靴、地面の危険物から足を守ってくれるふだんも履けるおしゃれな安全靴、どこにでも持ち歩ける折りたためる靴、住所や緊急連絡先が書ける中敷き。防災は足元からはじまります。

アイデア発案者



奥津 翼
フットウェア開発



安廣 恵
主婦



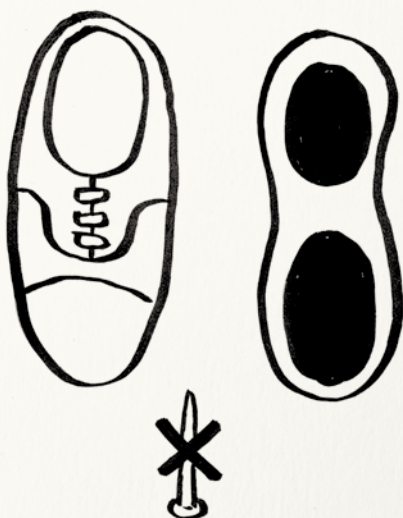
矢野 碧
高校生



百田 真治
防災 NPO スタッフ

もの

19



迷わず買える 防災グッズセレクトショップ

いざ買おうと思うと何を買っていいのか分からなくなるのが防災グッズ。年齢や人数を入れると、必要な防災グッズがセレクトされ、セットになって購入できるウェブサービスがあれば、今よりももしものに備えやすくなるかもしれません。

アイデア発案者
.....



正井 裕子
中学校教員



和田 武大
デザイナー

こと

20



防災つどいの場

日本全国にモデルハウスがある無印良品の家。その場所で、暮らし方だけではなく、防災訓練や講座など、もしものときへの備え方もあわせて学ぶことができれば、地域の人たちが気軽に集まるつどいの場としての新しい家のあり方が見えてくるかもしれません。

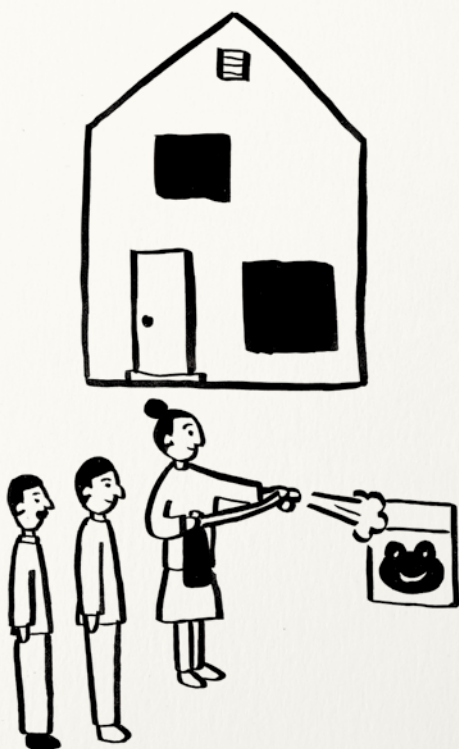
こと

アイデア発案者



正井 裕子
中学校教員

21



いつものもしもタグ

無印良品の商品についているタグ。その裏側にその商品がもしものときにどんな使い方ができるのかが書かれていれば、いつもの商品を見る視点が少し変わるかもしれません。

アイデア発案者
.....



二階堂 薫
コピーライター



中水 かおる
会社員



和田 武大
デザイナー

こと

22

FRONT



BACK



日めくり防災

1日1アイデア、もしものときに備えるための知識や技が書かれた日めくりカレンダーがあれば、もしもの備えが自然と身につくかもしれません。

アイデア発案者



正井 裕子
中学校教員



三木 裕子

もの

23



段ボールボックス

いつも使うというわけではないけれど、用途が明確なアイテムをしまっておくための頑丈な段ボールのボックス。もしものときにすぐ取り出せるよう、積んだり置きっぱなしにしているけど違和感のない、日常になじむデザインのものを。

アイデア発案者



加藤 聡士
会社員



和田 武大
デザイナー



二階堂 薫
コピーライター

もの

24



防災から考える無印良品の寝室

家の中でも、たくさんの時間を過ごすことになる寝室。ここでも、手にとりやすい位置にライトなどを置いておく、寝ている自分の方に倒れてきそうなものは置かない、窓にしっかりカーテンをかけて、万一、窓ガラスが割れたときも破片が飛び散らないようにする、といったもしものために備えられることがたくさんあります。

アイデア発案者

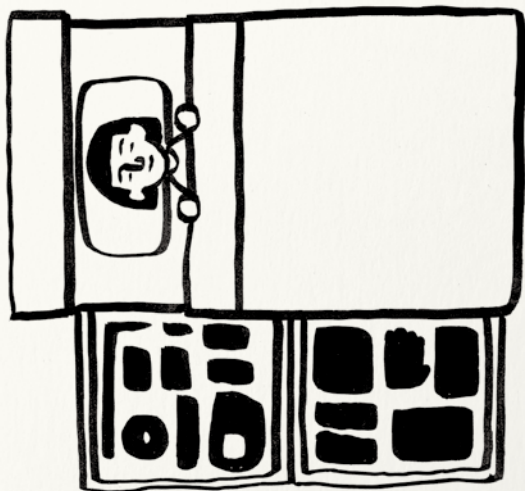
 安廣 恵
主婦

 三木 裕子

使

い方

25



BOSAI クッション

たとえば、大きなクッションの中にもしものときにしか使わない防災グッズを入れておけば、置き場所に困ることもなくなりそうです。

アイデア発案者



和田 武大
デザイナー



加藤 聡士
会社員

使

い方

26



防災を無印良品の規格で考える

ファイルボックスやユニットシェルフなど、いろいろなところで無印良品ならではの規格サイズがあります。そのサイズにあわせて、もしもの備えの保管の仕方を考えることで、いつものくらしに違和感なく溶けこむことができそうです。

アイデア発案者

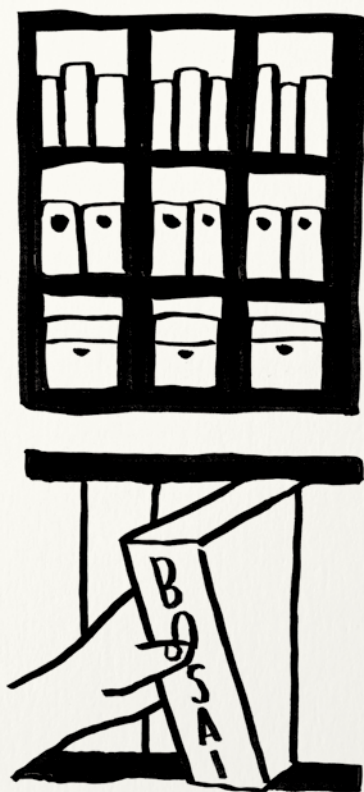


和田 武大
デザイナー

使

い方

27



もしもの水の保管のしかた

防災グッズの中でも、水はたくさんの量を備えなくてはなりません。家庭用の備蓄として必要とされている「1週間分」を確保しようとする、4人家族だと $3\text{L} / \text{日} \cdot \text{人} \times 4 \text{人} \times 7 \text{日} = 84\text{L}$ 。つまり2Lペットボトルで42本も必要になります。クッションの中や無印良品のウォーターストッカーなど、水の置き場を考えることはもしもの備えを考えることにつながります。

アイデア発案者



片渕 未帆
会社員



奥津 翼
フットウェア開発



中野 優
KIITO スタッフ

使

い方

28



防災グッズのしまい方

もしもの備えの収納方法。いろんな収納グッズに入っている収納の方法を書いたガイドシートに防災グッズのタイプがあれば、どこに何をしまえばいいのか分かりやすく、収納が楽しくなりそうです。

アイデア発案者



和田 武大
デザイナー



中野 優
KIITO スタッフ



百田 真治
防災 NPO スタッフ

こと

29



ローリングストックを日常に

食品を食べながら補充する新しい非常食の形、ローリングストック法。この仕組みをより実践しやすくするために、無印良品にもともとあるストッカーと組み合わせればいつものくらしの中にもしもの備えをとり入れられそうです。

アイデア発案者

 加藤 聡士
会社員

 安廣 恵
主婦

 和田 武大
デザイナー

 三木 裕子

 百田 真治
防災 NPO スタッフ

使

い方

30



KIITO MUJI+ クリエイティブゼミ

いつものもしも考

ふだん使いできるモノで災害時を考える

無印良品のアイテムや取組みをもとに、より災害時の備えとなるための使い方や改良点の発見などを行うゼミプログラムを開講しました。各回、アイデアを共有するためのシートを用いて議論を行い、「モノ」の隠れた使い方を見つけ出したり、モノとモノの組み合わせで新たな使い方を発見したり、またそうした行為を通じて新しい「いつものもしも」の提案へとつなげることを目指し、最終的には約 180 のアイデアが出てきました。

開催日時 2015/3/3 (火)・3/10 (火)・3/17 (火)・3/26 (木)
19:15-21:15 全 4 回
会場 KIITO 2F ライブラリ
(3/10のみ、無印良品 グランフロント大阪店 Open MUJI スペース)
講師 高橋 孝治 (プロダクトデザイナー)
永田 宏和 (デザイン・クリエイティブセンター神戸 副センター長)
参加費 無料
参加者 18 名
主催 デザイン・クリエイティブセンター神戸、株式会社良品計画
協力 NPO 法人プラス・アーツ



高橋 孝治
プロダクトデザイナー



永田 宏和
KIITO 副センター長



奥津 翼
フットウェア開発



片瀬 未帆
会社員



加藤 聡士
会社員



久保田 琴美
大学生



寺田 理恵
グラフィックデザイナー



友定 徳子
会社員



中水 かおる
会社員



二階堂 薫
コピーライター



正井 裕子
中学校教員



三垣 恭子
主婦



三木 裕子



安廣 恵
主婦



矢野 碧
高校生



山森 彩
ライター



和田 武大
デザイナー



手塚 寛
防災関係



百田 真治
防災 NPO スタッフ



中野 優
KIITO スタッフ

みんながクリエイティブになる。

そんな時代の中心になる。

神戸で暮らす人や働く人。子どもや、若者や、大人たち。

そんなすべての人が集まり、話し、つぎつぎに何かを生みだしていく場所。

それがデザイン・クリエイティブセンター神戸です。

一部のアーティストやデザイナーだけでなく、

さまざまな人や世代が交流し、そこから生まれるアイデアや工夫で

新しい神戸をつくっていく。

その「実践」が積み重なれば、じぶんの街への愛着が増し、

街そのものにも個性が生まれ、やがては神戸の経済も

より元気になっていく。

人がクリエイティブになること。街がクリエイティブになること。

この場所が、そのための中心地となること。

近い将来、日本や世界のまちづくりのお手本になるために、

神戸三宮の地で、かつてない試みが始まっています。

ひと、まち、せかいの、センターになる。

デザイン・クリエイティブセンター神戸





KIITO MUJI+クリエイティブゼミ

いつものもしも考

ふだん使いできるモノで災害時を考える

発行：2015 年 3 月

制作・発行

KIITO:

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

〒 651-0082 神戸市中央区小野浜町 1-4

TEL : 078-325-2235

<http://kiito.jp/>

デザイン：角谷 慶 (Su-)

イラストレーション：山内 庸資

